

2019年12月18日

**2019年度**  
**朝日大学学生の学修時間に関する実態調査**

**IR 推進本部**

# 目的および方法

## 1 学生を対象とした自主学修時間調査について

高等教育全体の質の向上が課題となっている。その中で大学教育における質の保証、つまり学生の主体的な学修による教育の充実と、さらにはそれらの成果を可視化して公表することが求められている。朝日大学 IR 推進本部では、2015 年度から朝日大学各学部および学年で学修時間調査を行い朝日大学における学修時間の実態について明らかにしてきた。しかし、これまでの学修時間の調査は、1 日あたりの学修時間として調査してきたため、1 週間あたりの学修時間で評価されている欧米やわが国の他大学の結果と比較することが容易でなかった。そこで 2018 年度からは 1 週間あたりの学修時間として新たに調査を始めた。

2019 年度も引き続き、学生部と IR 推進本部とで共同で調査を行い、「2019 年度学生の意識及び生活実態に関する調査」として、2018 年度と比較した。

## 2 アンケート調査項目および方法

アンケートは全体で 28 項目で構成されている。IR での検討項目は、その内、以下の 2 項目とした。

### 1) 学修時間について

設問⑳：今学期の 1 週間当たりの平均自習学修時間を教えてください。

回答：①0 時間 ②1 時間未満 ③1～3 時間未満 ④3～6 時間未満 ⑤6～10 時間未満  
⑥10～15 時間未満 ⑦15～21 時間未満 ⑧21 時間以上

### 2) 成長実感

2019 年度から新たな設問として、成長実感の項目をもうけた。

入学してから人間的に成長していると感じているかどうかを訊いたものである。

設問㉑：あなたは入学時と比べ、成長していると感じますか？

回答：①おおいにある、 ②少しある、 ③あまりない、 ④ほとんどない

### 3) アンケート調査期間

朝日大学では、学生の意識及び生活実態に関する調査は毎年 7 月から実施している。2019 年も 7 月から 9 月の 3 ヶ月間に実施した。

### 3 対 象

朝日大学法学部、経営学部（経営学科、ビジネス企画学科）、保健医療学部（看護学科、健康スポーツ科学科）、歯学部の学生。ただし、歯科衛生士専門学校、留学生別科、大学院生は除いた。

## 結 果

### 1 アンケート集計結果

2019年度 学生の意識および生活実態に関する調査  
学部学科別回答率

	男子	女子	計*	回答数	回答率
法学部	321	50	371	303	81.7%
経営学部	468	137	605	531	87.8%
	経営学科	124	371		
	ビジネス企画学科(4年)	13	97		
保健医療学部	46	310	356	334	93.8%
保健医療学部	318	70	388	358	92.3%
	健康スポーツ学科				
歯学部	568	283	851	824	96.8%
全体	1721	850	2571	2350	91.4%

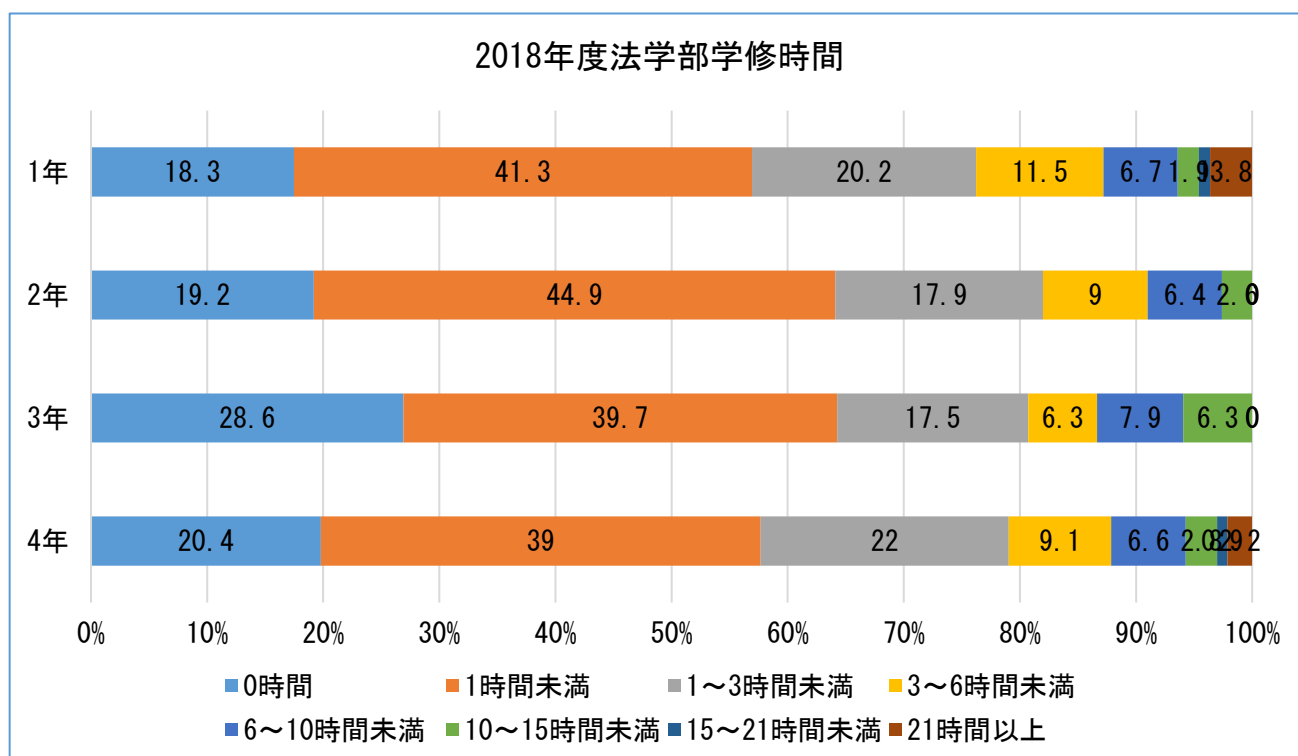
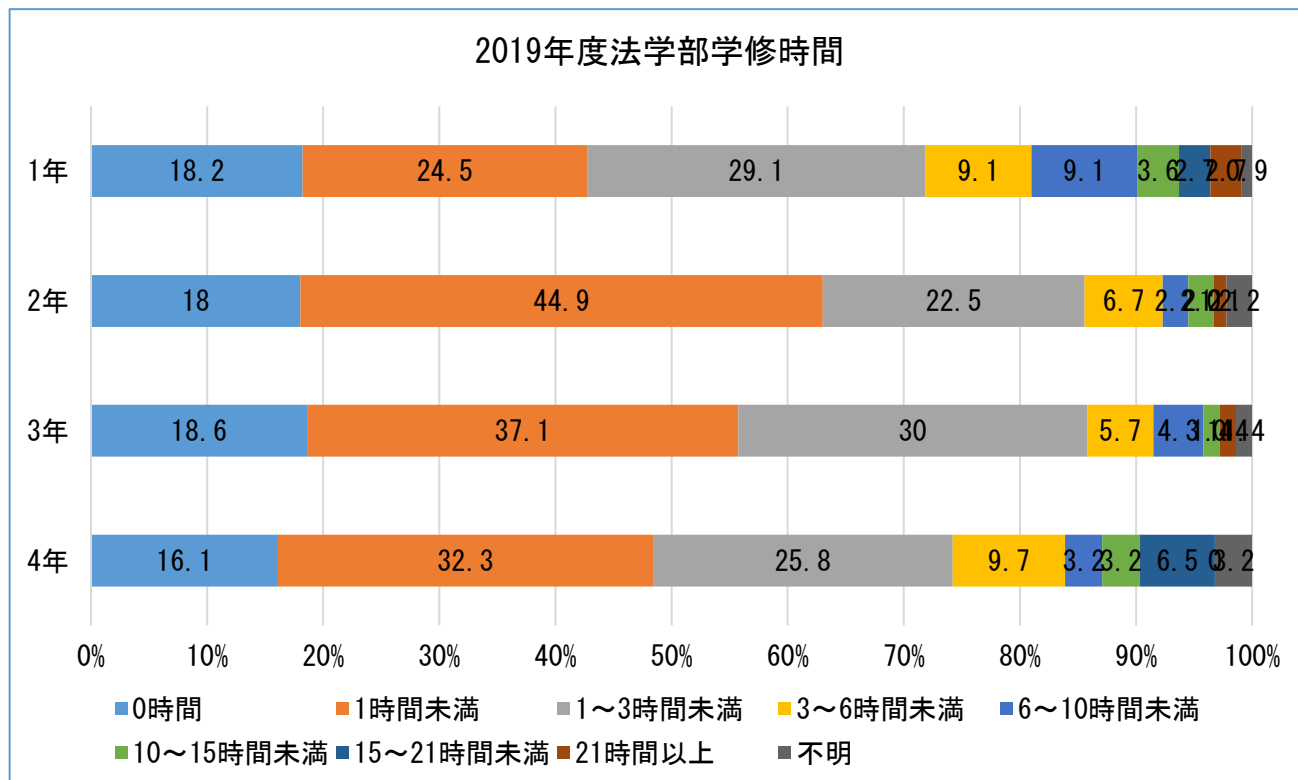
\*5月1日時点学生数

アンケート回収率は、全体で2571名中、2350名(91.4%)の回答であった。学部別では、歯学部の96.8%が最も高く、法学部の81.7%が低かった。

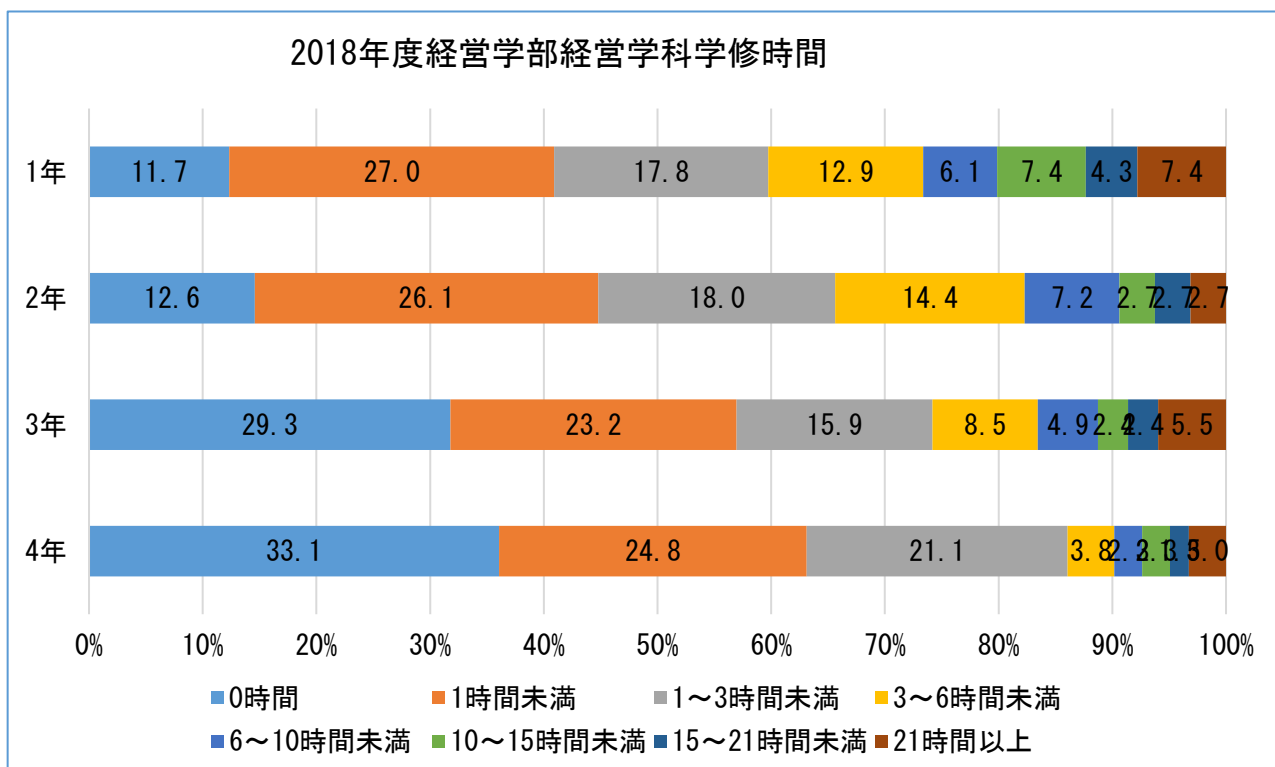
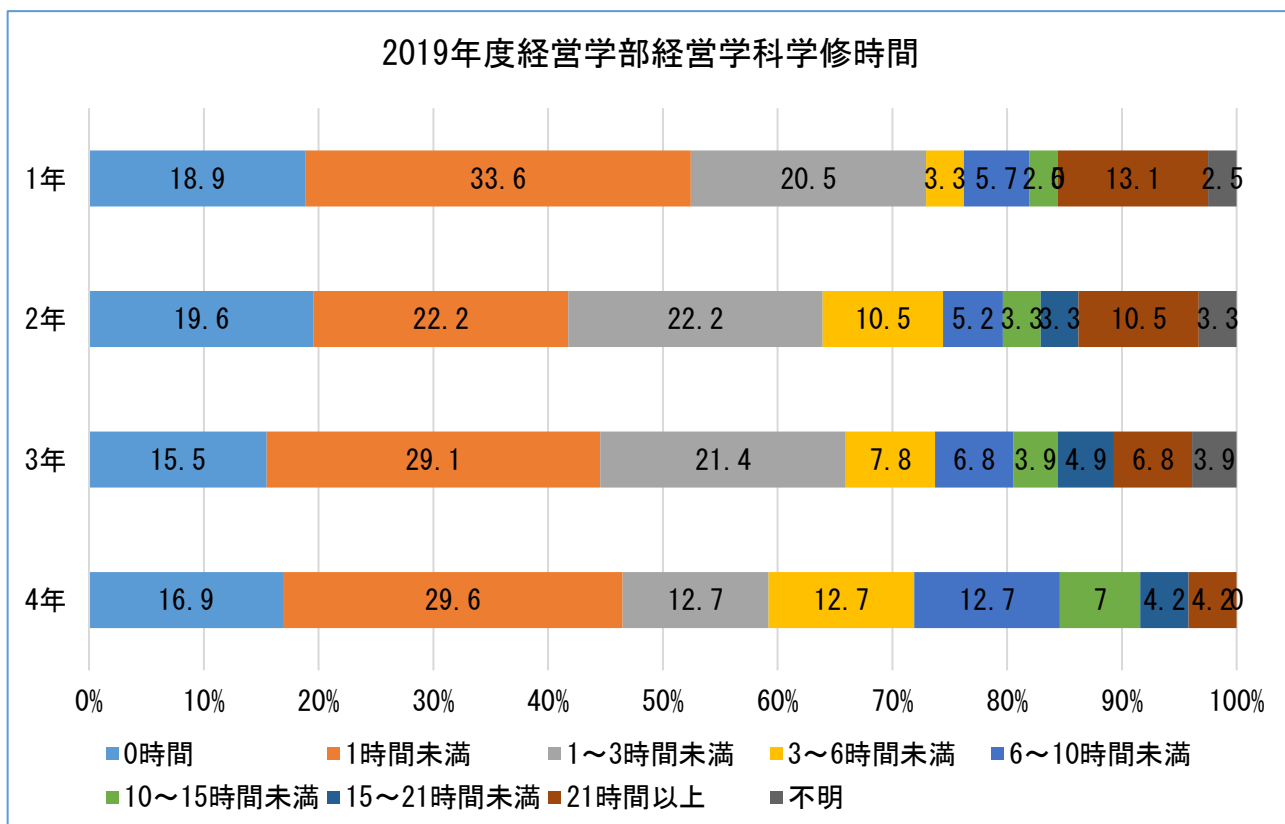
2018年度の回収率と比較すると、2018年度は全体で86%であったので、本年は5%以上の上昇を示していた。これは教員の中に、この時期に「学生の意識及び生活実態に関する調査」を行うことへの認識と協力性が増したことによると考えられた。

## 2 学部・学年別 学修時間

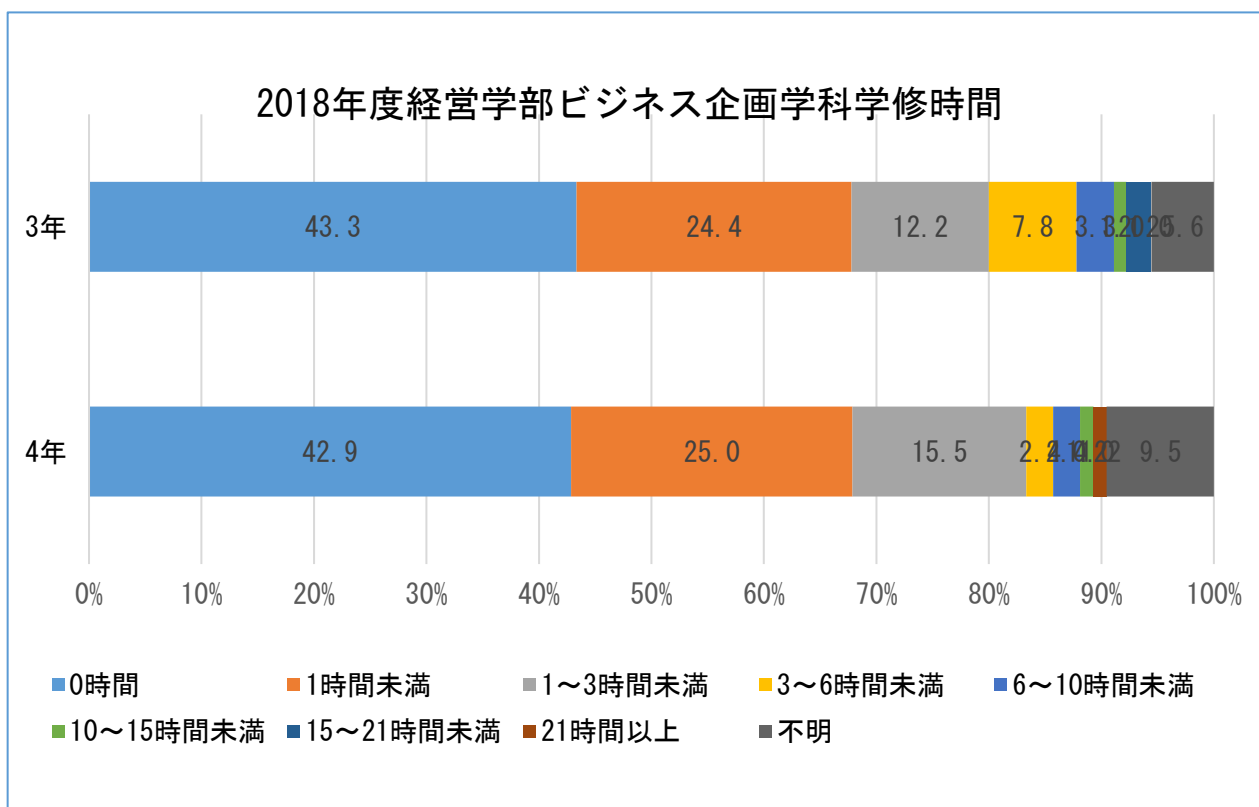
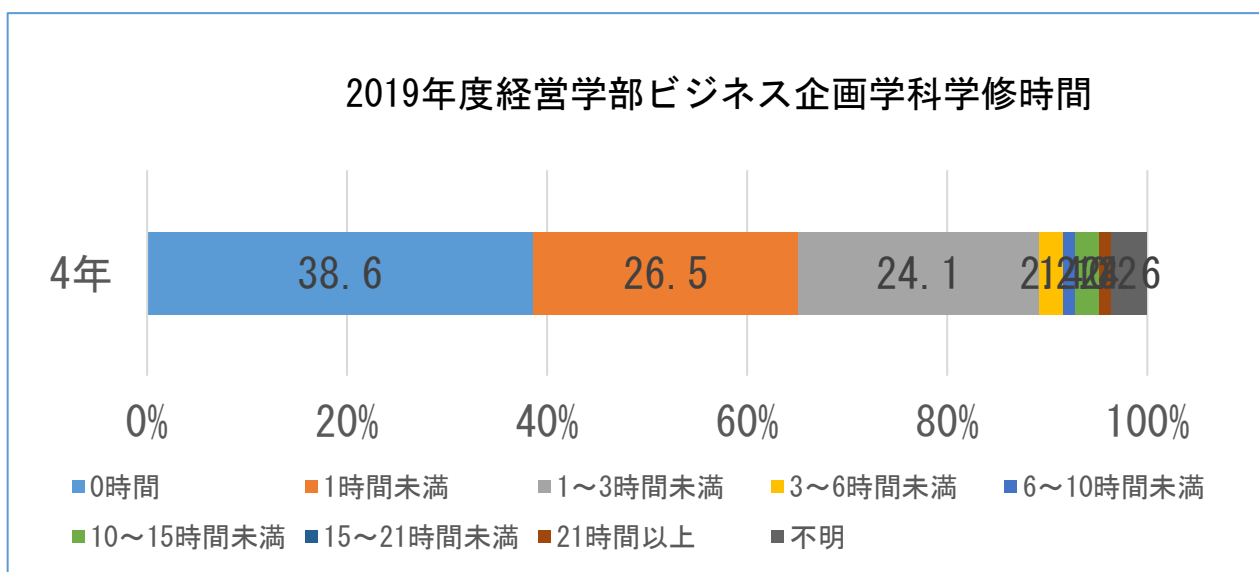
### 1) 法学部



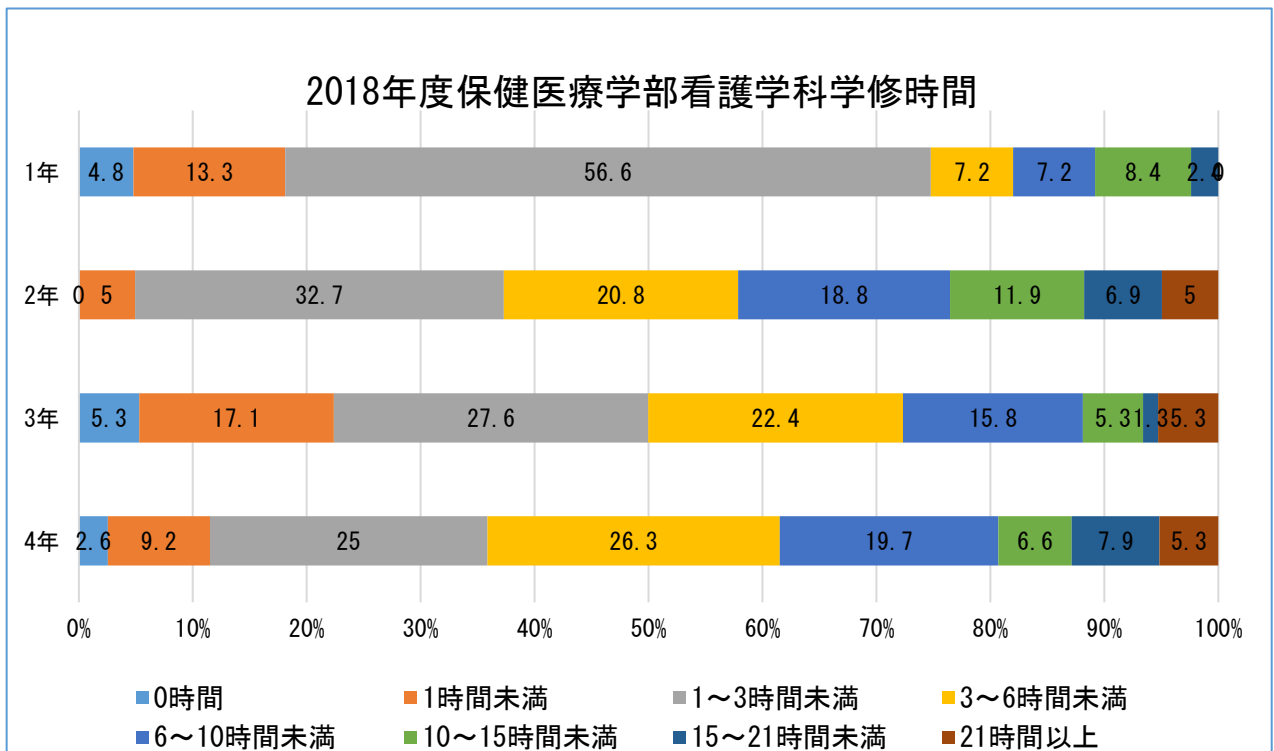
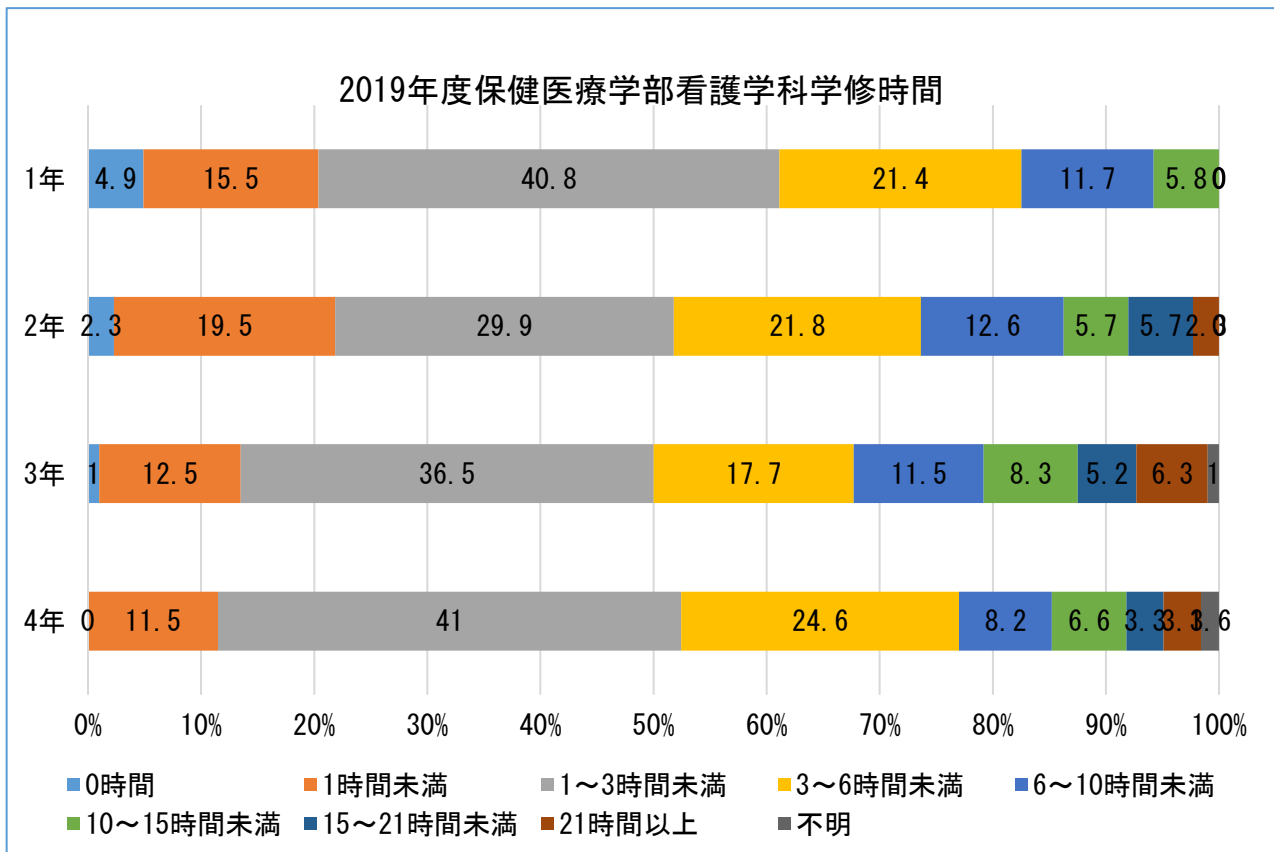
## 2) 経営学部経営学学科



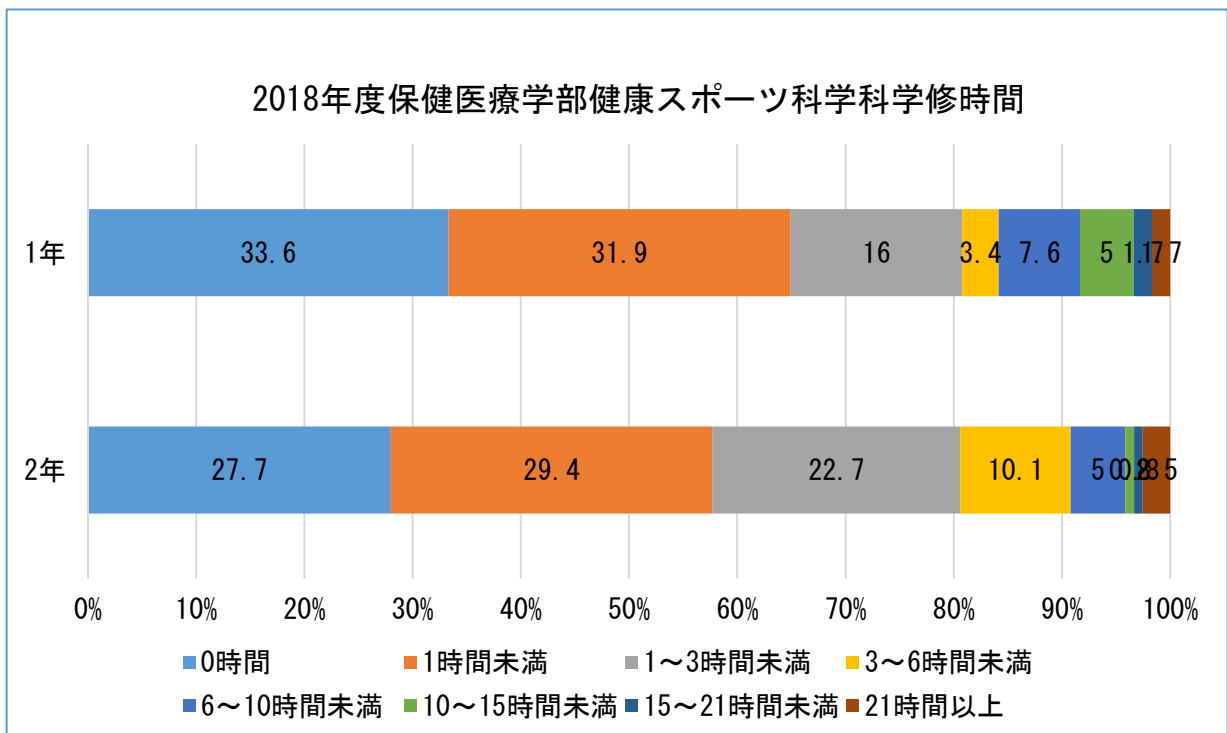
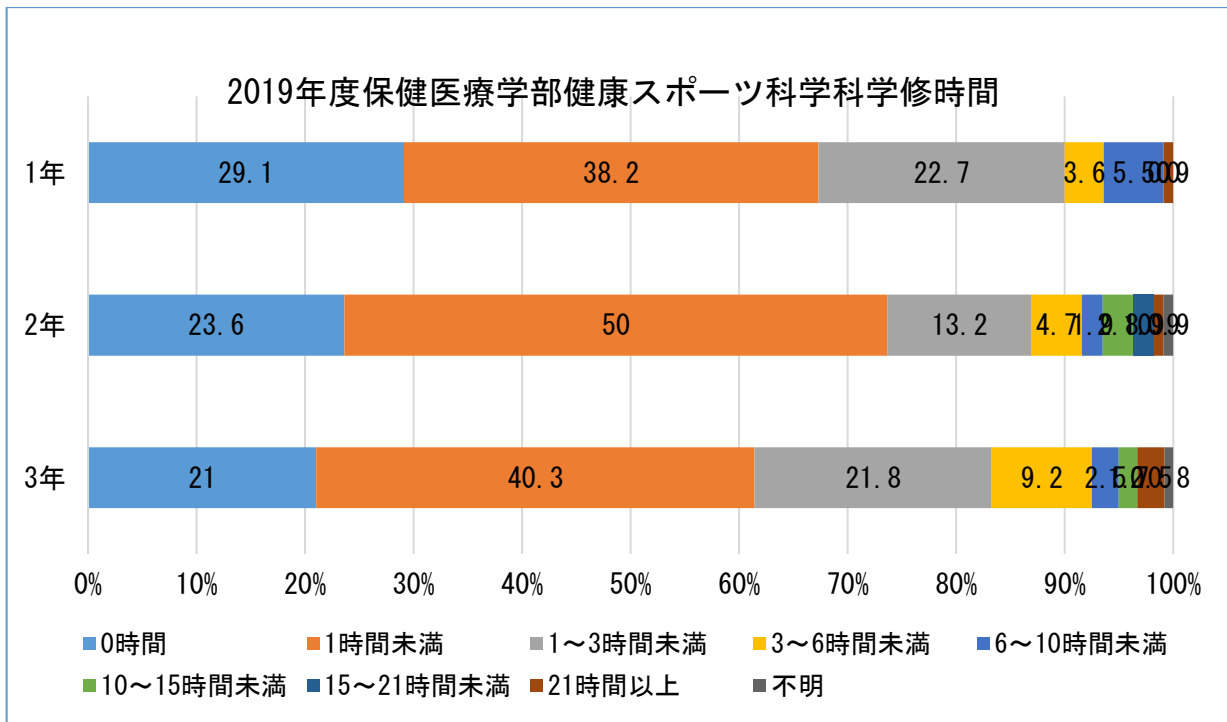
### 3) 経営学部ビジネス企画学科



#### 4) 保健医療学部看護学科学修時間

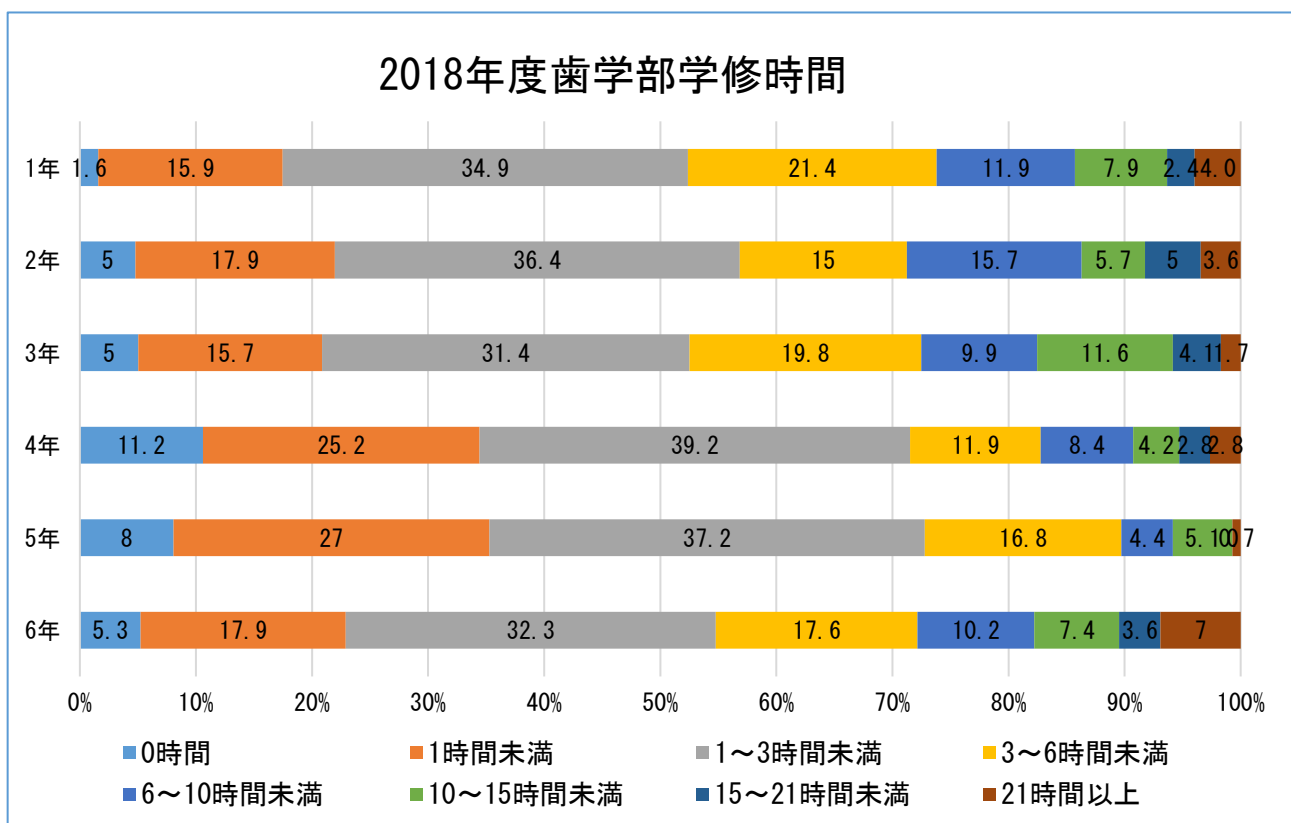
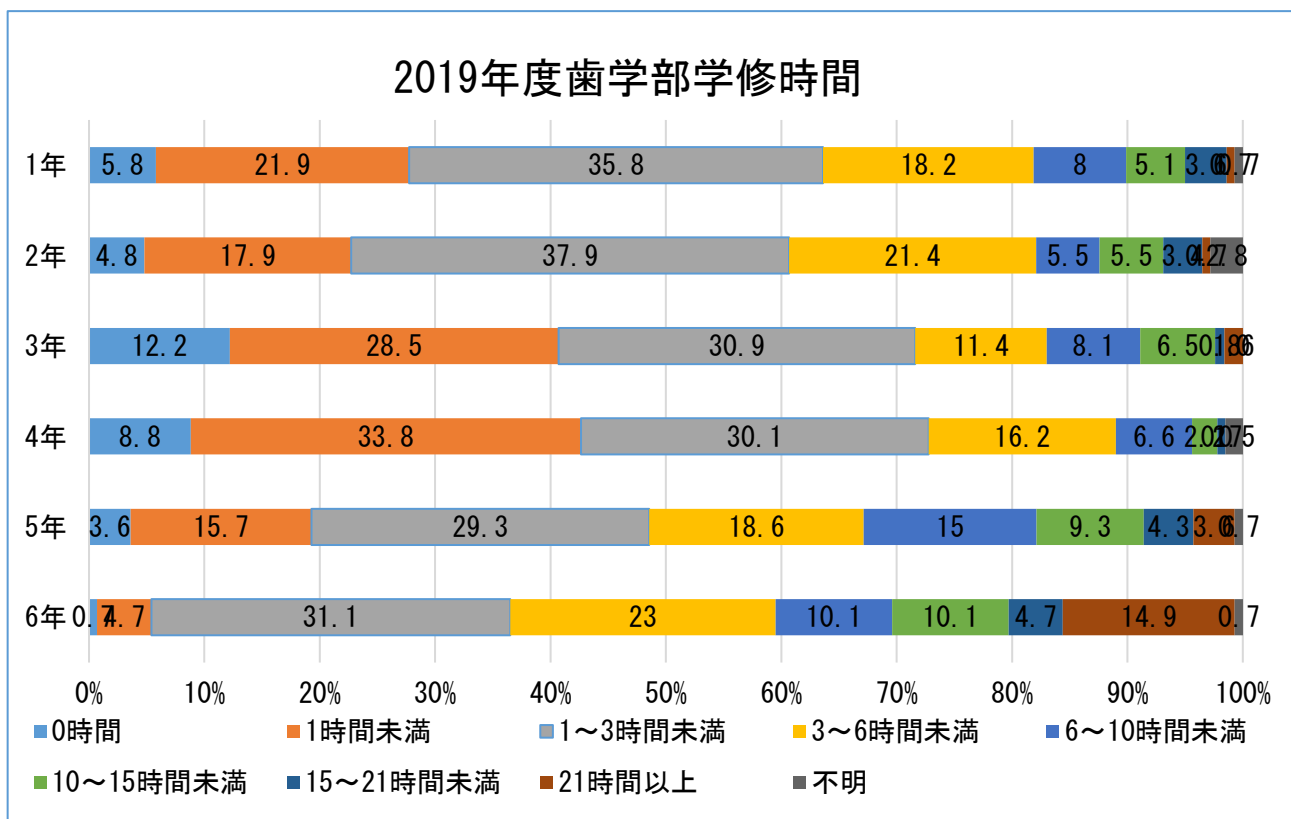


5) 保健医療学部健康スポーツ科学科





## 6) 歯学部



### 3 1週間に10時間以上学修した人数(割合)の学部・学年別学修時間

2019年度 各学部における1週間に10時間以上学修した人数および割合(%)

学部 / 学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
法学部	10 (9.0)	3 (3.3)	2 (2.8)	3 (9.7)		
経営学部						
経営学科	9 (15.6)	26 (17.1)	16 (15.6)	11 (15.4)		
ビジネス企画学科	—	—	—	4 (3.6)		
保健医療学部						
看護学科	6 (5.8)	12 (13.7)	19 (19.8)	8 (13.2)		
健康スポーツ学科	1 (0.9)	6 (5.6)	5 (4.2)	—		
歯学部	13 (9.4)	14 (9.6)	11 (8.9)	4 (2.9)	24 (17.2)	44 (29.7)

人(%)

2018年度 各学部における1週間に10時間以上学修した人数および割合(%)

学部 / 学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
法学部	7 (6.7)	2 (2.6)	4 (6.3)	6 (8.2)		
経営学部						
経営学科	31 (19.0)	9 (8.1)	17 (10.4)	9 (6.8)		
ビジネス企画学科	—	—	2 (3.3)	2 (2.4)		
保健医療学部						
看護学科	9 (10.8)	24 (23.8)	9 (11.9)	15 (19.8)		
健康スポーツ学科	10 (8.4)	5 (4.1)	—	—		
歯学部	18 (14.3)	20 (14.3)	21 (17.4)	14 (9.8)	8 (5.8)	63 (49.2)

人(%)

1週間の学修時間は、2019年度も全体的に短い。

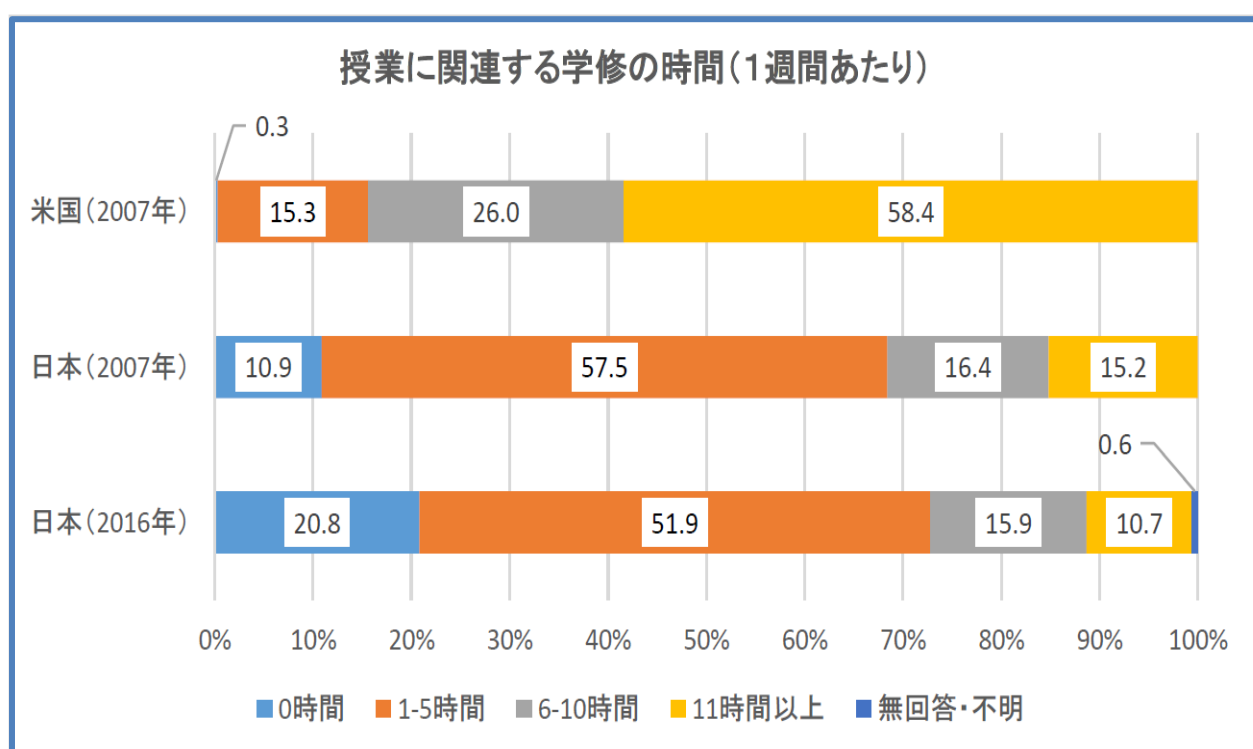
理由として、2018年度は定期試験が夏期休暇前に行われたが、2019年度は夏期休暇に入るのが遅く、試験の実施時期も遅くなった。その分、調査期間では、試験前の学修時間が短くなったと考えられた。

また2018年度 IR での学修時間の申し合わせで、歯学部や看護学科での実習の予習復習や健康ス

スポーツ学科での課外トレーニングの時間等も自主学修時間に含んでよいことになっていたが、アンケート依頼の際、それらが徹底されていないことも学修時間が短かった理由の一つと考えられた。

2018年度には、教員に対しても自分の科目の希望する予習復習の時間を調査した結果、学生実態と教員の希望する学修時間とは大きな開きがあることも明らかになった。学修時間を延ばすために、文系学部では欧米の大学のように課題とレポートを課すことも提案されたが、実施も個々の教員に任されているため実態は不明である。今後の検討課題としたい。

### 参考図 日米大学生の1週間あたりの学修時間（再掲）



出典：東京大学大学経営政策研究センター（CLUMP）「全国大学生調査」（2007年）、国立教育政策研究所「大学生等の学習状況に関する調査」（2016年度）

参考図は、日本の大学生が米国と比べ1週間あたりの学修時間数が圧倒的に少ないとされる根拠になっているデータである。例えば、11時間以上の学修時間をみると、米国学生58.4%に対し2016年次の日本の学生は11時間以上が10.7%であった。

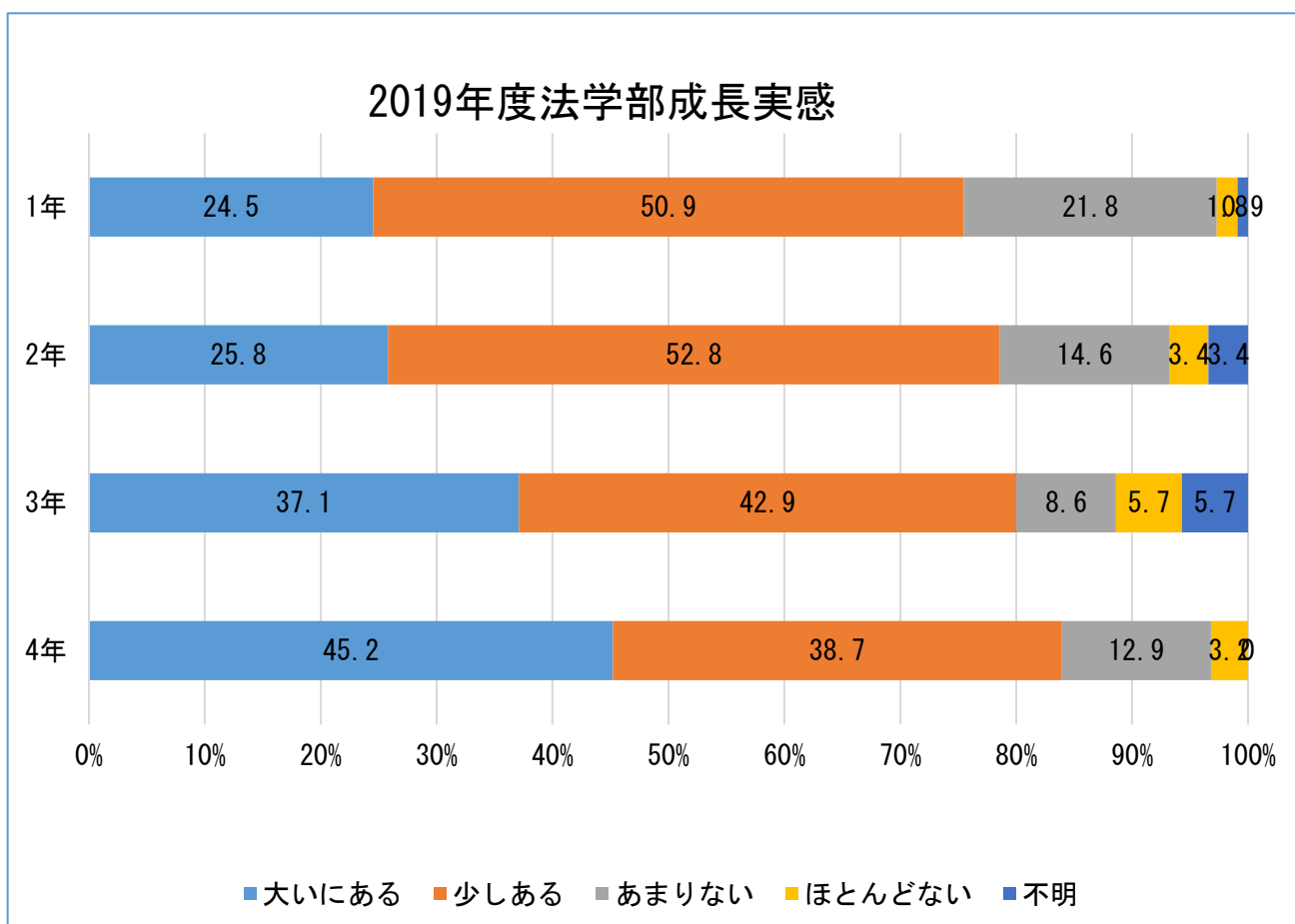
それに対し、朝日大学学生では、同様に10時間以上の学修時間を示す学生が、やっと10%を超えていた学科は経営学科（1～4年生）、看護学科（2～4年生）、歯学部（5, 6年生）であった。歯学部6年生の10時間以上学修者率も、2018年49.20%から2019年度20.7%と大きく低下していた。

## 4 成長実感

2019年度から新たな設問として、入学してから人間的に成長していると感じているかどうかを訊いた成長実感の項目をもうけた。

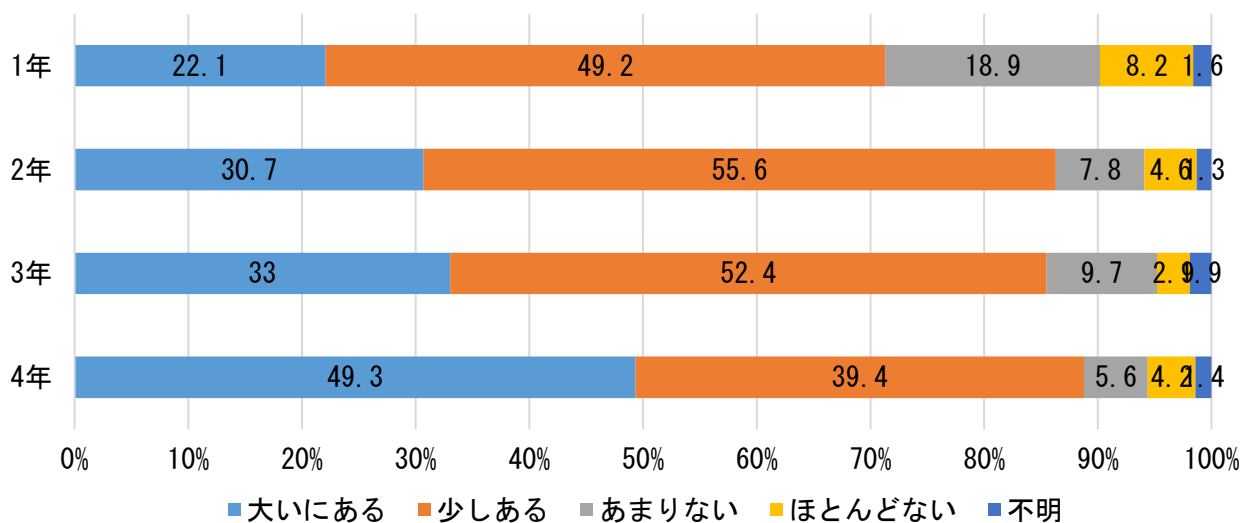
設問⑤：あなたは入学時と比べ、成長していると感じますか？

回答：①おおいにある、 ②少しある、 ③あまりない、 ④ほとんどない

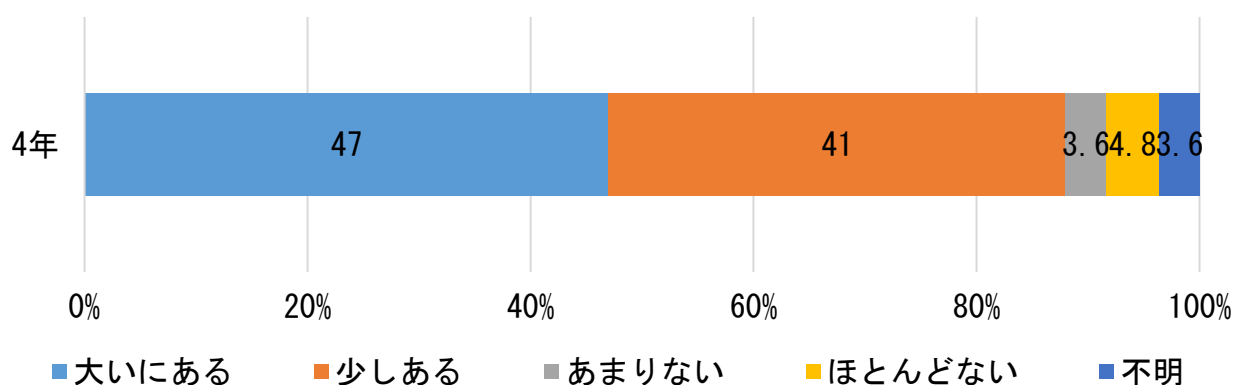


学年が進むにつれて、成長していると感じている学生が増えている。4年生では、「大いにある」、「少しある」を合わせて83.9%が成長を実感していた。

### 2019年度経営学部経営学科成長実感

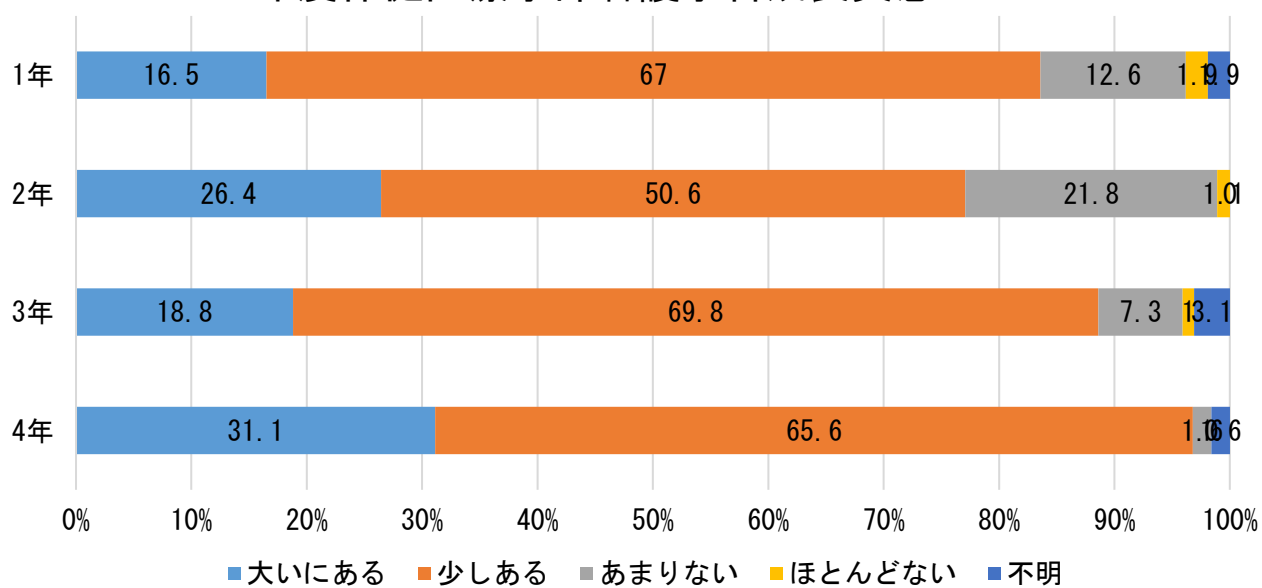


### 2019年度経営学部ビジネス企画学科成長実感

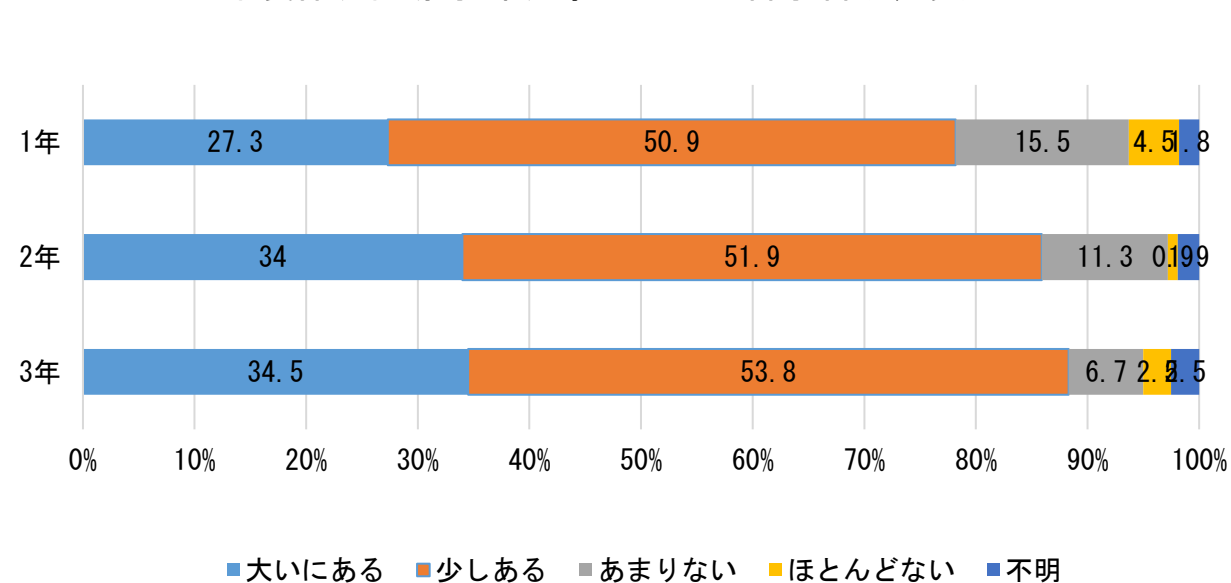


経営学部も学年が進むにつれて成長しているとの実感が「大いにある」、「少しある」と答えた者が増えていた。4年生では、経営学科が88.7%、ビジネス企画学科が88%と、両者とも高い成長実感をもっていた。

### 2019年度保健医療学部看護学科成長実感



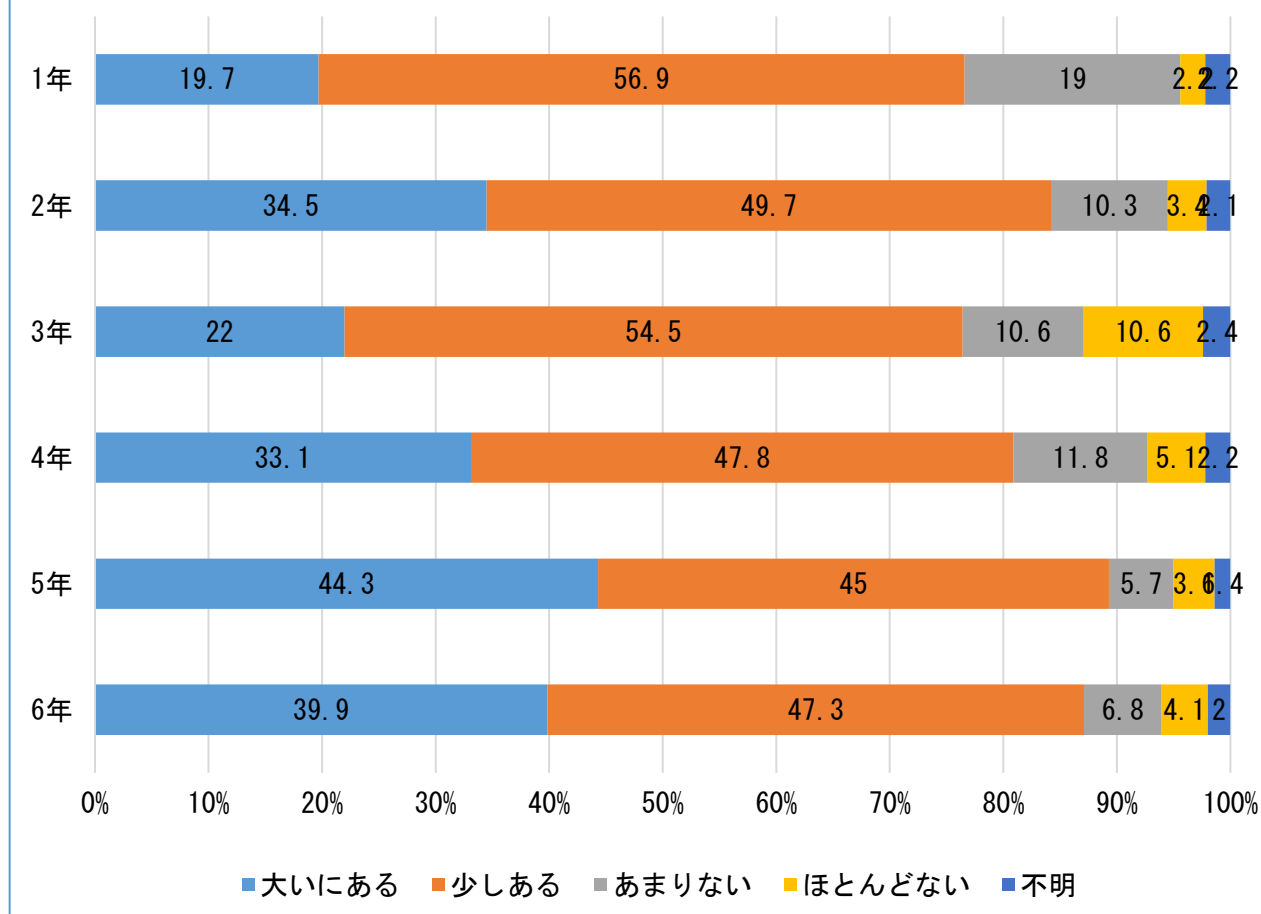
### 2019年度保健医療学部健康スポーツ科学科成長実感



看護学科で「大いにある」の成長実感が3年生で低下している。

健康スポーツ学科も学年進行で「大いにある」、「少しある」が増加している。

## 2019年度歯学部成長実感



歯学部学生は、1年から6年までを通すと、「大いにある」と「少しある」を合わせた割合が増える傾向があるが、学年により異なっていた。つまり学年進行で必ずしも一定の方向性を示しているとはいえない。これは各学年で学修する科目数や内要、また進級とも関係していると考えられた。

### 成長実感の全学部でのまとめ

IRでは卒業時にも達成感・充実感のいわゆる満足度調査を実施している。2018年度の調査結果では、「大いに」と「少し」と合わせた満足度が91.3%と高い値であった。

学部生の成長実感の調査は2019年度に初めて行ったが、学年が進むにつれて評価値が高くなる傾向が見られた。卒業時満足度の結果と考え合わせ、上昇の傾向は卒業時にまで続くものと予想された。